

《履修上の留意事項》毎回、各自のPCを必携のこと。授業では、毎回、各自のPCを使って演習をしますので、忘れずにPCを持参してください。

《担当者名》教授 / 村井 毅

教授 / 二瓶 裕之 教授 / 鈴木 一郎 教授 / 足利 俊彦

准教授 / 新岡 丈治 准教授 / 近藤 朋子

講師 / 中山 章 講師 / 木村 治 講師 / 井上 貴翔 (看護福祉学部) 講師 / 西牧 可織 (心理科学部)

【概要】

薬学専門教育へ向けての基礎学力を向上させるためにも、研究や調査、学修の成果をまとめ、レポートや論文を作成する能力を修得することは重要となる。本講義ではそのための基本的な力、具体的には、論理的な文章を的確に読解する力（読解力）、相手の考えを的確にまとめる力（要約力）、自分の考えを適切に表現して、わかりやすく伝える力（論理的思考力、文章構成力、論述力）などを身につけることを目標とする。また、クラウドなどのICTを活用しながら、グループワークやピアレビューを実施し、多面的な視点にたったディスカッションができるようにする。

なお、「文章指導」は文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」に選定された教育プログラムを構成する授業科目である。

【学修目標】

薬剤師として必要不可欠になるコミュニケーション能力、特に言語表現の能力（読解力・要約力・文章構成力）を身につける。レポートや論文の基本的な作成手順を身につける。

定められた書式、正しい文法にのっとりて文書を作成できる。

目的（レポート、論文、説明文書など）に応じて適切な文書を作成できる。

薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を修得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 3	ガイダンス、事実と意見、悪文添削、1回目レポート 事前にクラウド上で配布	定められた書式、正しい文法にのっとりて文書を作成できる。（知識・技能） クラウドの利用方法を説明できる。 事実と意見の差異について説明できる。 文体 / 話し言葉と書き言葉 / 記号の使用など日本語表記の基本的なルールについて説明できる。 悪文添削の課題を解くことができる。 与えられた課題に対してレポートを作ることができる。 与えられた課題に対してSGD(スモールグループディスカッション)を実施できる。 SGDでの結果を踏まえて改善したレポートを作ることができる。 【演習】悪文添削の課題に対して、クラウドのフォームを利用して回答を送信し、クラス全体で回答結果を共有する。 【SGDの内容】レポート作成後に、同じ課題に対して小グループでディスカッション(SGD)をする。SGDでは、ブレインストーミングにより、クラウド型のホワイトボードに自分の意見を書き込み、かつ、他の人の意見も見ながらグループとしての意見をまとめる。さらに、SGDを踏まえて、レポートを再度提出するとともに、レポートがどのように改善できたのかについても報告する。 薬学準備教育ガイドライン (9) - - 1	担当者全員

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
4 6	ノートの取り方 事前にクラウド上で配布	<p>目的（レポート、論文、説明文書など）に応じて適切な文書を作成できる。（知識・技能） メモとノートの違いについて説明できる。 模擬講義のノートを取ることができる。</p> <p>【演習】様々な形式（口頭説明形式，板書形式，スライド形式）の授業を聞きながらノートを取る。</p> <p>【SGDの内容】ノート作成の後、SGDでのブレインストーミングを通して「良いノート」の共通認識を持つ。さらに、クラウド上にグループでノートを再度作成し、簡単なピアレビューを行い、次のループリック評価表によるピアレビューへとつなげる。</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (9) - - 2</p>	担当者全員
7 9	ループリック評価とピアレビュー、 2回目レポート 事前にクラウド上で配布	<p>【事前学修】事前に指定された課題についてレポートを提出すること。</p> <p>レポートの基本的な作成手順について説明できる。 様々な評価の方法について説明できる。 ループリック評価表について説明できる。</p> <p>【SGDの内容】SGDでのブレインストーミングを通して、グループごとに学生自らがレポートを評価するためのループリック評価表を作る。さらに、ループリック評価表によりピアレビューする。ピアレビューの結果を踏まえて、レポートを再度提出するとともに、レポートがどのように改善できたのかについても報告する。</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (9) - - 1,2</p>	担当者全員
10 12	文章の読解と要約、3回目レポート 事前にクラウド上で配布	<p>文章を要約する基本的な方法について説明できる。</p> <p>【演習】文章の読解と要約の課題に対して、クラウドのフォームを利用して回答を送信し、クラス全体で回答結果を共有する。</p> <p>【SGDの内容】自分で文章を要約した後に、文章読解と要約の講義とSGDでのブレインストーミングを通して文章要約の方法を学ぶ。SGDを踏まえて、レポートを再度提出するとともに、レポートがどのように改善できたのかについても報告する。また、クラス全体のレポートを機械学習したレポート採点添削システムも使いながら、自身のレポートの改善を図る。</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (9) - - 1,2</p>	担当者全員
13 15	4回目レポート、文章指導のまとめ 事前にクラウド上で配布	<p>薬剤師を取り巻く環境に関する文章を読解して要約できる。</p> <p>【PBL】与えられた課題に対して、インターネットでの情報検索も交えながらエビデンスに基づいた課題解決型協働学修を行う。それを踏まえて最終レポートを作成して、文章指導の総まとめができるようにする。</p> <p>薬学準備教育ガイドライン (9) - - 1,2</p>	担当者全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業参加態度（グループ討議の回にはルーブリック評価表に基づいて討議への参加態度を評価する）を40%、授業で作成するレポートを60%で評価する。提出された課題については、次回の授業、また、eポートフォリオシステムにおいて、提出された課題の中の特徴的な誤りについての解説やよくできた課題の紹介を行う。

【教科書】

授業中に資料を配布する。

【学修の準備】

授業は3時限連続で実施するが、毎回、グループワークを実施するため、クラウドに配布されたグループワークに関する資料を、あらかじめダウンロードして個々で読んで授業に臨むこと(80分)。授業終了後は、グループ討議の結果を振り返り、授業中に作成したプロダクトを再度作成するなどの事後学修（復習）を行うこと。授業中にレポートの課題を出された場合には期日までに作成すること(80分)。

【薬学準備教育ガイドライン】

(9) プレゼンテーション

文書によるプレゼンテーション

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

中山 章（薬剤師）、木村 治（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療現場における自己の経験を踏まえた講義・指導を行うことで、教育効果の向上が期待される。